短期的・長期的心理状態を測定可能な情動・覚醒質問紙の作成(4)

— 再検査信頼性の検討 —

○織田弥生¹・高野ルリ子²・阿部恒之³・菊地賢一¹

(¹東邦大学理学部・²(株)資生堂ビューティークリエーション研究センター・³東北大学大学院文学研究科)

キーワード：質問紙，心理状態，信頼性

An examination of the test-retest reliability of the Emotion and Arousal Questionnaire developed to measure short-term and long-term psychological states

Yayoi ODA¹, Ruriko TAKANO², Tsuneyuki ABE³ and Kenichi KIKUCHI¹

(¹Toho University, ²Shiseido Co., Ltd., ³Tohoku University)

Key words : questionnaire, psychological states, reliability

目 的

織田・高野（2008）は，短期的心理状態（今の気持ち）と長期的心理状態（ここ1週間の気持ち）の両方の測定が可能な33項目の質問紙を作成し，織田・高野（2009）において多面的感情状態尺度，STAI，ストレッサー尺度，織田・高野・阿部（2011）においてJUMACL，GACL，POMSとの関連とその妥当性を報告した。本質問紙は同じ33項目を用い，質問の仕方を変えるだけで目的に応じて短期的心理状態と長期的心理状態の測定の両方に活用できるように作成した。しかし実際に長期的心理状態を正しく測定できているかは，短期間に再検査を行い確認する必要があると思われる。

本研究では，「ここ1週間の気持ち」を測定する質問紙の信頼性を，再検査（授業開始時と終了時の短期間に2回質問紙を実施）により検討する。比較のために，同時に「今の気持ち」への回答も求める。参加者が「週」の気持ちを回答していることを確認するために，2回の測定の間に計算課題を行い，「今」の心理状態を変化させるように操作する。「週」の心理状態を回答することが出来ていれば，計算課題を行っても2回の測定に大きな変化は起きないはずである。これに比べて，「今」の心理状態には変化が起きると考えられる。

再検査信頼性の指標として2回の測定の相関係数を求め結果を検討する。「今の気持ち」は状況によって変化するため相関が低く，「ここ1週間の気持ち」は今の気持ちより安定しているため，相関が高いことが予測される。

方 法

使用質問紙：情動・覚醒質問紙（織田・高野，2008）：33項目，9尺度（恐怖，怒り，悲しみ，嫌悪，快，緊張覚醒＋，緊張覚醒－，エネルギー覚醒＋，エネルギー覚醒－）。

参加者：大学生78名（男性29名，女性49名，18-23歳，平均20.0歳）

手続き：参加者は，まず授業開始時に質問紙に回答を行った。情動・覚醒質問紙を用いて，始めに「今の気持ち」について0（全く感じない）～3（非常に感じる）の4件法で回答し，次に「ここ1週間の気持ち」について0（全くあてはまらない）～3（非常にあてはまる）の4件法で回答した。記入が終了したら回収した。直後では1回目の回答を覚えている可能性があるため，2回目の測定は授業終了後に実施した。質問紙への回答に先立ち，参加者はまず1桁-2桁の数字の足し算を，できるだけ早く正確に行う課題を5分間行った。課題が終わったらすぐに，情動・覚醒質問紙を用いて「今の気持ち」と「ここ1週間の気持ち」に記入を行った。

解析：各質問紙より尺度得点（各項目の平均値）を算出し，ピアソンの積率相関係数を算出した。

結 果

表1に「今の気持ち」と「ここ1週間の気持ち」の各尺度の平均値と相関係数を示した。「ここ1週間の気持ち」の各尺

度の相関係数は.71から.86と高かったが，今の気持ち」の相関係数は.05から.57と低かった。いずれの尺度も相関係数の値は「週」の方が「今」よりも高くなっていた。

表1 「今の気持ち」と「ここ1週間の気持ち」の課題前後の各尺度の平均値（標準偏差）と相関係数（ $n = 78$ ）

	今の気持ち			ここ1週間の気持ち		
	前	後	相関	前	後	相関
恐怖	0.59 (0.64)	0.28** (0.40)	.45	0.90 (0.79)	0.74** (0.76)	.86
怒り	0.39 (0.50)	0.52 (0.56)	.29	0.83 (0.76)	0.69** (0.72)	.84
悲しみ	0.70 (0.66)	0.51** (0.55)	.56	0.96 (0.80)	0.79** (0.76)	.79
嫌悪	0.54 (0.60)	0.54 (0.64)	.45	0.82 (0.72)	0.70* (0.67)	.71
快	1.13 (0.69)	1.06 (0.79)	.54	1.37 (0.74)	1.22** (0.72)	.80
緊張覚醒＋	1.01 (0.72)	1.49** (0.75)	.05	1.60 (0.80)	1.32** (0.79)	.75
緊張覚醒－	1.53 (0.75)	0.80** (0.82)	.21	1.29 (0.82)	1.15* (0.76)	.75
エネルギー覚醒＋	0.95 (0.67)	1.18** (0.80)	.57	1.21 (0.78)	1.16 (0.74)	.80
エネルギー覚醒－	1.01 (0.85)	0.73** (0.72)	.48	1.09 (0.79)	0.94* (0.74)	.71

前後の t 検定の結果 **: $p < .01$, *: $p < .05$

考 察

「ここ1週間の気持ち」の9尺度はいずれも前後の測定間で高い相関を示した。2回の測定の間に計算課題を行っており，「今の気持ち」は相関係数が低いことから，「ここ1週間の気持ち」については2回の測定で安定した回答が得られていることがわかる。この結果からは，「ここ1週間の気持ち」を測定する質問紙の信頼性が確認されたと考える。一方，平均値に関しては2回の測定において「週」の気持ちにも有意差が見られたため，今後データを増やし，さらに検討する必要があると考えられる。

引用文献

織田弥生・高野ルリ子（2008）. 日心理学会第72回大会発表論文集，1060.
織田弥生・高野ルリ子（2009）. 日本心理学会第73回大会発表論文集，972.
織田弥生・高野ルリ子・阿部恒之（2011）. 日本心理学会第75回大会発表論文集，849.